



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1964号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

第2027回例会

2014.5.29晴

司 会 三田明宏君

ロータリーソング 「手に手つないで」
指揮 登崎久夫君

会長挨拶 副会長 諏訪部照久君

今月は、第五週に副会長の挨拶となりましたので宜しくお願いします。

今日本の企業は、グローバル化と共に新興国へも積極的に進出していますが、特に新興国の政情には神経を尖らせています。そのなかでも最近のタイのクーデターは、今までとは異なり、タイ国への直接投資額一位の日本国としても、心配せざるを得ない状況となっています。その理由は、プミボン国王(ラーマ9世)が高齢で争いの収め役として出てこれられないこと、選挙を繰り返してもタクシン派の地方の低所得者票が勝ること、イスラムの過激派もデモに加わりだしたこと等からです。そもそもタイという国はどんな国家で、プミボン国王(ラーマ9世)とはどんな人物なのでしょう。又、タクシン元首相とは、どの様な政治家で今後の政治にどの様な影響を及ぼすのかを調べてみました。

タイの歴史は3つの王朝で成り立っていますが、もともとは中国の雲南地域から漢民族に押されて来たのが、タイ族といわれています。今のタイ王国は95%が仏教徒で4%がイスラム教徒です。又、東西冷戦期に東南アジアの共産化(ベトナム・カンボジア・ラオス)を免れた国で、今は3番目の王朝が治めています。日本の天皇家とは600年の親密な関係が続いていますが、まだタイ国王は一定の力を持っています。それゆえ昭和天皇は、タイの王室がいつまで続くのか、心配されていたそうです。プミボン国王は、戦後に国の隅々まで貧しい農村を訪問し、王室の費用で村おこしを行ない復興してきました。その業績と人柄の良さから、今でも8時になると王室のニュースが一斉に流れるほどの人気があり、又、尊敬されているとのこと。だからクーデターが起こり、三権が機能しなくなった時でも「同じタイ国民なのだから争ってはいけない」の一言で収める事が出来たのです。一方、政治家タクシン元首相と

ビジネスを絡めた金権体質・多数派工作を得意とする田中角栄元総理とを同一視している学者がいます。有権者や政治家でも民主主義イコール多数決だと勘違いしている人が多く、今後タイでは都市のサラリーマンで中間所得層(反タクシン派)と半数を占める貧困農民層(タクシン派)との過激なデモ対決へとエスカレートしそうです。

タイの在留邦人は「デモやクーデターは怖くない、一番怖いのはプミボン国王が亡くなった時だ」と言っています。タイにはタイの文化があり、多少の対立や問題があっても流血騒ぎにはならないのが、平和なタイ式民主主義だと思います。国民から尊敬される長老の国王が亡くなることによって、タイ国民が政治や宗教の対立に巻き込まれ、大勢の血を流すような事態にならないことを、祈りタイと思います。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 三島市長 豊岡武士さん
瓜島史剛さん(三島市秘書課)
ビジター 中山章一君(三島RC)
八木貴夫君(三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	34/45	75.56%	38/45	84.44%
今回	40/49	81.63%	会員総数	53名

欠席者 石井(良)君、大畑君、勝間田君、佐野君、鈴木(正)君、長田君、村山君、森崎君、矢岸君

幹事報告

幹事 平出利之君

①6月12日(木)の第2例会の会場はプラザホテルに変更になっております。6時30分開会の点鐘です。

2013~2014年度
国際ロータリー会長
ロン D.バートン

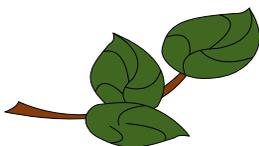
ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

おめでとう

会員誕生日 石井(彰)君
入会記念日 栗原君
結婚記念日 千葉君

スマイルボックス

- ◆三島RC八木貴夫君、お世話になります。
- ◆千葉君、本日例会終了後、Bテーブルにて次年度理事・役員会を開催します。宜しくお願いします。
- ◆佐々木君、出張の為早退させていただきます。



絵画同好会作品



勝間田信輔君

卓 話

三島市が進めている主要施策

三島市長 豊岡武士さん

平成26年度予算は市長任期4年目の節目の予算編成であり、三島に生まれて、育って、暮らして良かったと実感できる、誇れる街をつくるため、一般会計で358億円、前年度対比5.7%増の「元気・安心・希望あふれる三島を創造する積極型予算」となっております。

まず、「ガーデンシティ」の取り組みですが、三島市では今年の6月に世界遺産となった富士山からの贈り物である湧水が、幾多のせせらぎとなって流れています。さらに楽寿園や三嶋大社の緑と歴史や文化に恵まれた街に、新たに花を加え、美しく品格のあるまちづくりを進めています。シンボルとして花で飾られた大通りは、市外から訪れた方にも大変好評いただいているほか、街なかの賑わい創出にも貢献しています。

もう1つの大きな施策が、「スマートウエルネス」の取り組みです。スマート=聡明、ウエルネス=健康ですが、「康」の字に「幸」という字をあて、人もまちも産業も健康で幸せを実感できるまちづくりを目指すものです。保健医療、スポーツ、食、絆づくりを大きな柱としています。人口減、少子高齢化が大変深刻な社会問題となっている中で、健康づくりや子育て支援、地域の絆づくりによる防犯、防災のまちづくりを進めるキーワードが「健康」です。

最後にもう1つ、産業振興の取り組みについてご説明します。「内陸のフロンティアを拓く取り組み」では県が進める事業に手を挙げ、東駿河湾環状道路のインター付近を中心に5つの取り組みを実施しています。

まず1つは農業・観光関連施設集積事業です。これは来年オープンが予定される三島大吊り橋の隣接地に農家レストランやアンテナショップ等を設置するというものです。次に三ツ谷新田地区に工業団地を整備します。東日本大震災を受けて、高台への移転や拠点分散を進めている企業に対し誘致していきます。3つ目は玉沢インターチェンジ周辺に東駿河湾環状道路の工事残土により造成し、医療・健康産業等集積事業として、ファルマバレー関連企業を誘致していきます。4つ目は高規格幹線道路を生かした安全安心のまちづくり促進事業として、大場・函南IC周辺に物流、工場等の誘致用地を整備します。5つ目はゆとりある田園居住地区整備促進事業として、三ツ谷、市山、大場地区に低密度でゆとりのある住宅用地を整備します。また、商工業者の支援として、三島商工会議所との協働でみしま経営支援ステーション(M-ステ)を設置し、様々な中小企業支援を実施しています。

以上、簡単ではございますが、現在市が進めている大きな事業の概略について説明させていただきました。

(週報担当:西本和夫)